

新たな危機に備えを

著名投資家 J・ロジャーズ氏に聞く

世界三大投資家の1人と称され、来日中のジム・ロジャーズ氏が17日、福岡市で西日本新聞のインタビューに応じ、世界経済の先行きについて、各国の債務増加や米中貿易摩擦を懸念材料に挙げ「新たな危機に備えを」と警鐘を鳴らした。九州に関しては農業や観光分野に伸びしろがあると強調した。



国内外の経済見通しなどを語るジム・ロジャーズ氏17日、福岡市
(撮影・石田剛)

ジム・ロジャーズ ウォーレン・バフェット氏、ジョージ・ソロス氏とともに世界三大投資家と称される。ソロス氏と「クオンタム・ファンド」を設立したほか、米コロンビア大で金融を教えるなどした。米アラバマ州出身、76歳。

九州農業や観光に商機

「世界経済の見通しは。2008年に経済危機が起きて以来、世界中で債務の増加が続いている。中国もかなり大きな債務を抱えており、次に危機が起こればわれわれが生涯の中で経験したことがない規模になると思う。米中貿易摩擦は懸念材料の一つだ」

「日本の先行きは。毎日のように借金は増え、人口減が続いている。今後、生活水準が悪化することは明白だ。子どもを増やすか、移民を受け入れるべきだ。政府は移民受け入れの方向に考えを改めていくようだが(新たな在留資格「特定技能」の規模では)大きなインパクトはない。」

「消費税の増税は歴史が証明しているように経済を減速させるだろう」

「昨秋に日本の株などを手放した理由は。政府が借金を減らせず、人口問題を解決できていないからだ。今のところ日本株を買い戻すチャンスを見いだすことができない」

「日韓関係の悪化をどう

「私が世界経済の中でいちばん楽観的にみているのは農業分野だ。農業従事者は減り、耕作放棄地が増えている。『危機』には危険と機会の意味があり、農業にはチャンスがあると信じている。また、日本には素晴らしい観光資源が多く、やっと今、外国人が来るようになった。農業と観光は可能性が大きい分野だ」

(聞き手は具志堅聡、石田剛)

みるか。

「日本と韓国がののしり合う姿を見て『一体、何をしているのか』と思う。時間を浪費するのはやめるべきだ。例えば、日韓をつなぐトンネルのような構想を進めるためにお互いが働いた方がいい」

「農業が盛んな九州の可能性は。」